

■ マイルグランプリ (SII) (過去全 23 回の分析)

※第 1 回 (平成 7 年) から第 16 回 (平成 22 年) までは 3 月中旬～5 月下旬に実施
※第 17 回 (平成 23 年 3 月 30 日施行予定) は東日本大震災の影響により中止
※第 8 回 (平成 14 年) から第 9 回 (平成 15 年) までは大井ダ 1,590m で実施
※記録は平成 30 年 10 月 10 日時点

■ 1 番人気馬が優秀な成績をマーク

単勝 1 番人気馬は 9 勝、2 着 2 回、3 着 5 回で、3 着内率が 69.6%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 2 回、3 着 3 回で、3 着内率が 47.8%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 4 回、3 着 2 回で、3 着内率が 43.5%となっている。1 番人気馬の好走率が比較的高いレースだ。

■ 人気サイドの馬が上位を占めた例も少なくない

過去 23 回のうち 19 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 6 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■ コンサートボーイ、セイスコーピオンが“連覇”を達成

マイルグランプリにおいて 2 回以上の優勝経験があるのは、第 2 回 (平成 8 年) と第 3 回 (平成 9 年) を制したコンサートボーイ、第 23 回 (平成 28 年) と第 24 回 (平成 29 年) を制したセイスコーピオンの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■ 優勝馬の大半は 5 歳前後

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 0 勝、4 歳が 6 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 6 勝、7 歳が 4 勝となっている。施行時期の変更により第 18 回 (平成 23 年) から出走条件が「3 歳以上」に変わったものの、まだ 3 歳の馬は優勝例がない。

■ 牝馬と外国産馬は未だ初勝利ならず

牝馬は第 11 回（平成 17 年）のプルザトリガー、第 13 回（平成 19 年）のアウスレーゼ、第 19 回（平成 24 年）のラインジュエルがそれぞれ 2 着となったものの、現在のところ未勝利だ。また、外国産馬も第 9 回（平成 15 年）のタイキアーサーによる 4 着が最高着順で、優勝例はまだない。

■ 11 勝の大井勢を 8 勝の船橋勢が追う

所属別の勝利数を見ると、浦和所属馬が 1 勝、船橋所属馬が 8 勝、大井所属馬が 11 勝、川崎所属馬が 3 勝となっている。船橋勢ならびに大井勢が優勢だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、石崎隆之騎手と張田京騎手が 4 勝でトップタイ。的場文男騎手が 3 勝で単独 3 位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「2」

調教師別の勝利数を見ると、岡林光浩調教師、川島正行調教師、栗田繁調教師、高橋三郎調教師、月岡健二調教師、出川克己調教師、八木正喜調教師が 2 勝でトップタイとなっている。

■ 未勝利の馬番は 16 番のみ

枠番別の勝利数を見ると、4 枠と 6 枠（各 5 勝）がトップタイ。7 枠（4 勝）が単独 3 位、3 枠と 8 枠（各 3 勝）が単独 4 位となっている。また、馬番別の勝利数を見ると、10 番（3 勝）が単独トップ。6 番、7 番、8 番、11 番、13 番、15 番が各 2 勝、16 番だけが 0 勝で、残る馬番はいずれも 1 勝ずつである。

<伊吹雅也>